



理 念

働く人と地域のために

患者中心の最善の医療を実施します

Contents

新年の挨拶

院 長	佐藤 譲	1
副院長	石丸 正寛	1
副院長	岡崎 裕司	1
副院長	並木 淳郎	2
副院長	香川 秀之	2
副院長	入江 誠治	2
副院長	山口千恵美	3

核医学画像診断装置を更新	3
--------------	---



新年のご挨拶

病院長 佐藤 譲

新年あけましておめでとうございます。日頃、当院の運営面で多大なご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。当院は労災病院として勤労者医療を実践する使命を国から与えられ、癌、脳卒中、糖尿病の分野に置きまして、治療を継続しながら就労を支援する、「治療就労両立支援」に参画して参りました。今後も地道にこの両立支援活動に取り組んでいきたいと存じます。他方、当院は地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院として地域の医療の支えとなるべく、職員一丸となって頑張っております。中原区は我が国の中でも例外的に若年層の人口増加がみられている地域ですが、その中でも確実に人口の高齢化は進んでおります。こうした状況の中で、我が国の医療提供体制は大きく変化していくものと予想されます。病院には「病棟機能」の役割を明確化することが求められ、他方クリニックの先生方には「主治医機能」を果たすことが強く求められております。また在宅医療に関して病院の勤務医とクリニックの先生方との間で更に強い連携が必要とされると予想されます。当院はこれまでと同様な急性期医療を展開する一方、ご高齢の方に対しては日常生活を支え寄り添う医療を提供する道を模索して参ります。当院の職員は、安心安全な医療を提供する地域のランドマーク病院づくりを目指しております。本年も、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・外科部長・がん診療管理委員長・医療安全管理責任者 石丸 正寛

新年あけましておめでとうございます。平素より当院を暖かくご支援いただき大変ありがとうございます。

当院は厚生労働省から指定を受け2016年4月より「地域がん診療連携拠点病院」となりましたが、昨年6月までに当院でがん診療にかかわる医師の100%が緩和ケア研修会を修了いたしました。また市民公開講座を2016年度に2回、今年度はすでに1回開催しており、2回目を本年1月27日（土）に開催予定です。毎回多くの市民の方々に参加していただき、当方も大きな励みとなっております。これからより一層がん診療の充実を図っていく所存です。

また医療安全に関しましては、週1回の医療安全カンファレンス、月1回の医療安全推進委員会を継続して行っておりますが、昨年より医療安全管理委員会を新設し月1回開催することとし、さらに医療に関するアクシデントの再発防止策を重点的に討議することといたしました。毎年恒例の労災病院間医療安全相互チェック（当院・横浜労災病院・東京労災病院）も昨年12月に「患者誤認防止・部位誤認防止」をテーマにして施行いたしました。医療安全に対しまして、組織としてさらに体制を強化して臨んでいく所存です。

どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・整形外科統括部長・地域医療連携室長・感染症治療管理部長 岡崎 裕司

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は地域医療連携でも大変御世話になりました。心より感謝申し上げます、本年もどうぞよろしくご指導、ご鞭撻のほど紙面をかりてお願い申し上げます。

地域医療連携では、急性期病院として診療情報提供率向上に更に努めてまいります。また、地域連携バスの適応範囲拡大で心不全、誤嚥性肺炎などあらゆる疾患パスを導入し、地域医療連携関係の再構築と、維持期を含めた在宅医、介護職域の方々と「生活に戻すための医療」早期在宅復帰への連携強化に努めて参ります。

当院の使命である「がんと仕事の両立支援」も同様です。「病氣と闘う医療」から、「生活に戻すための医療」を積極的に実践して参ります。

今後とも地域のランドマーク病院としての役目を果たすべく職員一同、努力してまいります。皆様方の益々のご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・循環器内科部長 並木 淳 郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、当院の診療および運営面で格別のご配慮をいただきありがとうございました。

当院は昨年もこれまでと同様に、地域と働く人の急性期医療を担う病院として診療にあたっていました。救急部門では、内因性三次救急対応患者受け入れにより、一昨年と同様7,000台を超える救急搬送患者受け入れを行うことができました。しかし、内科系の一部診療科では医師の減員のため、ご紹介いただいたにも関わらずお断りせざるをえない場合もあり、地域の先生方には大変なご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。しかし、この問題も本年は医師の増員の目途がたち、以前の診療体制に戻ることが可能となりましたので、地域の先生方に置かれましては、是非また以前と同様に、当院へのご紹介をお願いいたします。

一方、昨今毎年のように起こる自然災害に対する対策は、災害拠点病院である当院にとって大きな使命です。厚労省も医療機関の災害対応については喫緊の課題と考え、BCP（Business Continuous Plan：災害時の損害を最小限にとどめて、病院業務の継続や早期復旧をする手順を定めた計画）を来年3月までに策定するよう省令を発しました。当院でも昨年よりBCPの構築に向けた取り組みを開始し、院内の災害対策委員会のもとに分野別小委員会を立ち上げ、災害発生時に地域の皆様の安全を確保する災害拠点病院としての責務を全うできるよう、本年9月までには完成いたします。

また教育病院でもある当院は、昨年の初期研修医の希望者数が、大学病院を除く臨床研修病院・市中病院の中で神奈川県下では1位、全国でも2位という高い応募がありました。これは、当院での初期研修医に対する教育が高く評価された結果と考え、さらにいっそう教育システムの充実を計っていくべく所存です。

今年度は診療報酬の引き下げが見込まれており、医療を取り巻く環境は一段と厳しさを増していますが、当院では引き続き、地域医療の要となるべく職員一丸となって努力してまいります。つきましては、本年も引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・産婦人科部長 香川 秀 之

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の診療、運営に多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

私の担当する周産期部門に関しましては、一昨年日本全国における出生数が97万人とついに100万人の大台を割り込み、昨年も推定93万人とさらに少子高齢化に向けて拍車がかかりました。一方、無痛分娩に伴う母児の医療事故に関する報道があいつぎ、分娩の安全性に対する要求がますます高まった一年となりました。そのような中、当院では“安全・安心な分娩”をモットーに昨年は1,200件余りの分娩を取り扱わせていただくことができました。これもひとえに当院に信頼を寄せてくださる地域の皆様のおかげであると感謝申し上げます。

今後も周産期医療にかかわる産婦人科医、小児科医、助産師をはじめとしたスタッフの確保、育成に力を入れて、皆様の期待に応えられるよう頑張っていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・血液内科部長・医学研究センター長 入江 誠 治

新年あけましておめでとうございます。旧年中のご高配に対し厚く御礼申し上げます。本年も皆様のご支援を賜りながら、がん診療、治療・就労両立支援に尽力する所存です。

さて『一隅を照らす』は私の医師人生を貫く座右の銘です。医療を取り巻く環境が激変し、少子高齢化が進もうとも、ICTやAIが世の中を席捲しようとも、変わらず最も重要なことは、良質な医療を誠実に提供することです。そうすることで患者さん、そのご家族、ひいては地域住民を笑顔にしたい、さらにその夢に共感し汗を流してくれる職員をも笑顔にしたい。それが私の願いです。たとえそれが困難な道であろうとも、私達は決して希望の灯を絶やしません。熱い心と、高い志と、強い使命感を持って、皆様と手を携えこれからも地域医療を支えてまいります。そしてその心の灯は次代を担う若者たちによって脈々と受け継がれてゆくと信じています。

末筆ながら当院に対し一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって希望に満ちた輝かしい年でありますよう心よりお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・看護部長 山口 千恵美

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。看護部では、地域包括ケアシステムの中で、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院等の役割をもつ急性期病院として、患者中心のチーム医療が推進でき、安全で質の高い看護が展開できるように努力しているところです。特に、昨年度より強化していることは入退院支援体制の整備です。MSW及び退院支援看護師を増員して入院早期からの介入を行うと共に地域の病院や施設の方々との連携を密にとり、入退院支援体制の充実を図ってまいります。また、近隣看護職の方々と共に学ぶことが出来るように、実習指導者研修、ファシリテーション研修、交渉力等についてはオープンセミナーにしています。また、ご要望の多いテーマについては、専門看護師（2分野2名）と認定看護師（13分野17名）が担当する研修を年10回開催していますので、ご意見等がございましたらお問合せください。平成30年も引き続き、地域の皆様の期待に応えられる質の高い看護が提供できるように努めてまいります。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

核医学画像診断装置を更新しました

中央放射線部

より質の高い医療の提供を目指し、SPECT装置とCT装置の機能を合わせ持った、米国GEヘルスケア製の高性能核医学画像診断装置「Discovery 670 DR」の運用が平成29年12月より始まりました。

この装置は、核医学検査による機能情報と、CT検査による形態情報を一度に検査することが出来ます。また、双方の画像を複合的に画像化することで、より診断能を向上させることが出来ます。

地域連携におきましても、乳がん、前立腺癌などの骨転移診断や、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病症候群の診断等も行っております。

今後も皆様のご期待に応えられるよう、より良い画像診断を提供いたしますので、よろしくお願いいたします。

